

4月4日(イースター礼拝)のメッセージ

聖書：ヨハネによる福音書 20：1-18

「わたしは主を見ました」

マグダラのマリアはきっと、夜通し泣きながら過ごしていたのでしょう。夜が明けるとすぐにイエスの墓へ向かいました。たとえ亡骸であったとしても、少しでも近くにいたいと思っていました。ところが、墓に到着すると、墓の入り口が開いていることに驚きます。慌ててペトロともう一人の弟子の所へ行き、事の次第を報告します。ペトロともう一人の弟子は早速、墓まで出かけ、墓の中を確認します。二人が出した結論は、やはり、イエスはどこにもおられないという事実でした。

マリアは、自分では墓の中を確認していません。石が取りのけられているのを見て、誰かが何かをしたのだろうと想像しました。また、二人の弟子の話聞いて、やはり自分の想像が間違っていなかったのだと思いました。どちらも自分の目で確認したわけではありません。ただただ、悲しかったのです。

だから、そこにイエスがおられないとわかって、悲嘆の涙はさらに激しくなったことでしょう。後ろを振り向いてイエスを見た時、それがイエスだと気づけなかったのは、涙がフィルターのように覆い隠したからかもしれません。マリアはまだ自分の見たいものだけを見ようとしていたので、まさかイエスがそこにいるとは思わなかったのでしょう。

しかし、イエスが「マリア」と言われると、彼女は語りかける声の主を見ようとして、再度振り向き、自分の見たい方向ではない方向を直視します。するとそこには、あの会いたかった先生、復活されたイエスの輝く顔がありました。

神は悲しみの中にある者を決して見捨てられることはありません。闇の中で涙に暮れる者に、喜びの朝を迎えさせてくださいます(詩編 30:6)。

今、マリアの涙は拭われました。自分が見たいものを見たいように見るのではなく、見なければならぬものを見るために。彼女の目はしっかりと復活のイエスを見えています。

もう迷うことはありません。「わたしは信頼して、恐れぬ」。なぜなら、「主こそ、わたしの力」だからです(イザヤ書 12:2)。イエスを与えてくださった神以外に頼るものはなく、神こそが唯一、私に力を与えられる方であると再認識しました。そして、彼女はこの出会いを伝えるために、喜びを伝えるために一歩を踏み出します。「わたしは主を見ました」と告げるために(マタイによる福音書 20:18)。

神は私たちの涙もそのままにはされません。私たちもマリアと共に今、復活のイエスと出会っています。共に喜びを告げる者として招かれているのです。

マグダラのマリアは
弟子たちのところへ行って、
「わたしは主を見ました」と告げ
(ヨハネ20:18)



07-04-15

M,